令和８年１１月１０日

富山市立小・中学校教員の勤務の状況について（令和５年度～令和７年度）

１　勤務時間把握方法

「校務支援システム C4th」を活用

① 出退勤時刻　（R7.8 月より出退勤用端末による打刻。週休日・休日を含む）

② 超過勤務時間（自動計算）かつ業務内容（任意入力）

③ 持ち帰り時間（任意入力）かつ業務内容（任意入力）

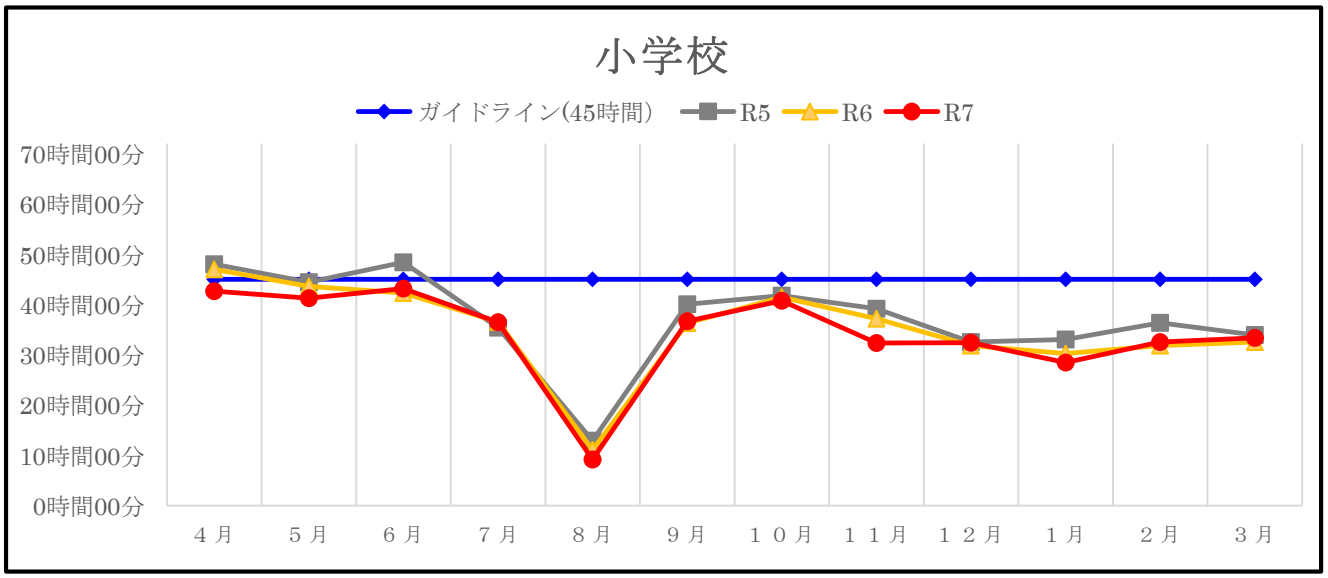
２　対象教職員

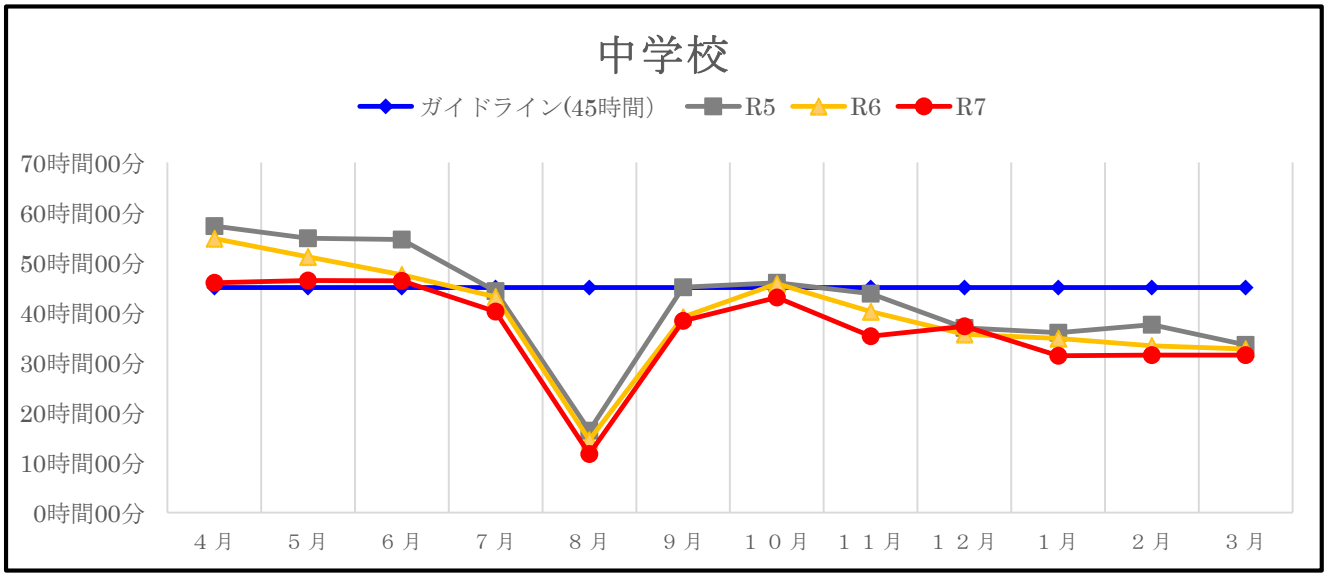
校長、教頭、教諭（再任用を含む）、養護教諭、栄養教諭・学校栄養職員、事務職員、臨時的任用講師

※以下の教職員は、対象外とする。

会計年度任用職員、短時間再任用教諭、短時間勤務職員

３　時間外在校等時間の各月平均



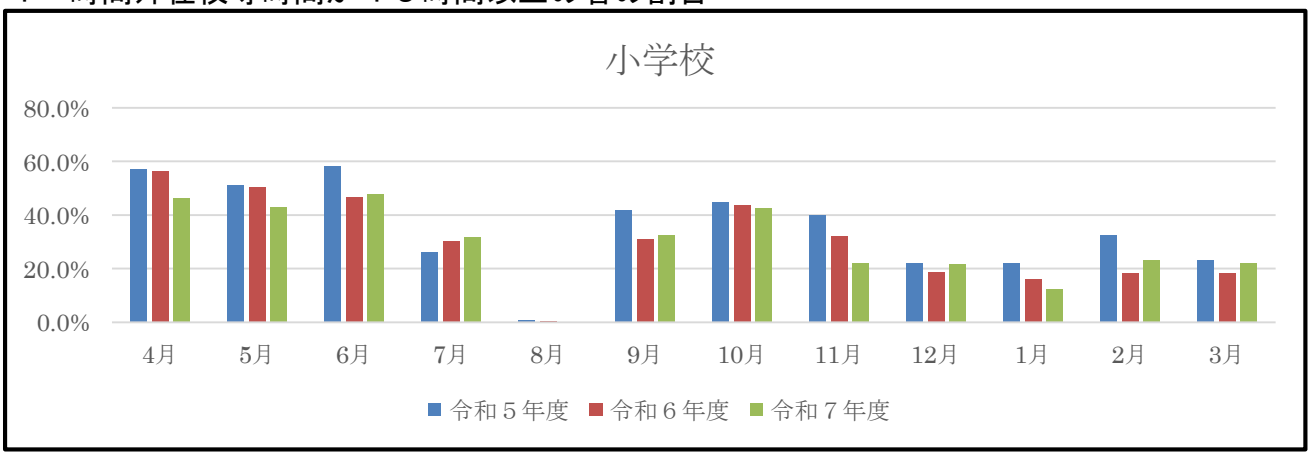


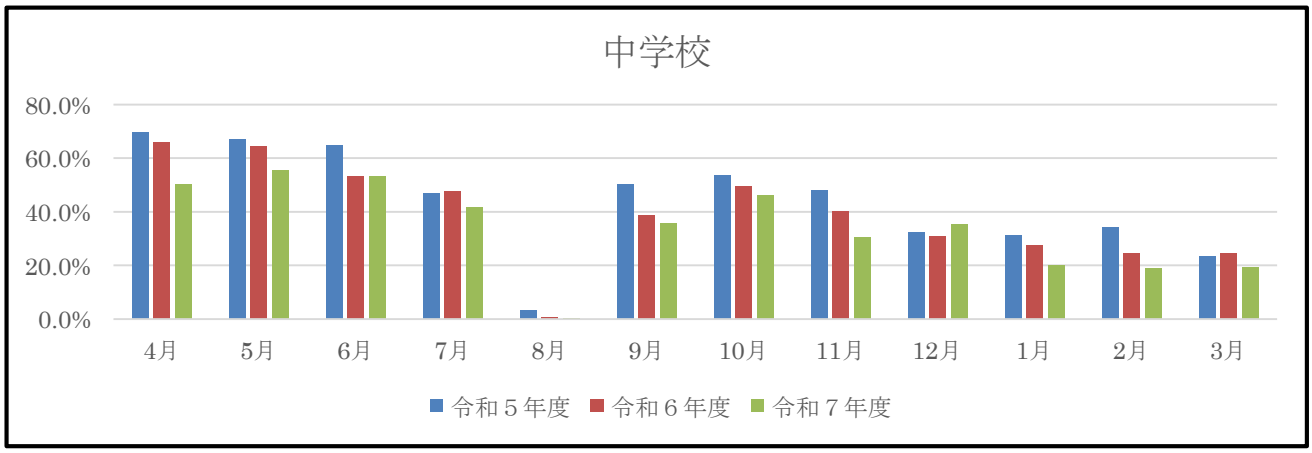
＜年間平均＞

	小学校平均	中学校平均	全体平均
令和５年度	３７時間０８分	４２時間０９分	３８時間５２分
令和６年度	３５時間０７分	３９時間２２分	３６時間３６分
令和７年度	３４時間０４分	３６時間３２分	３４時間５５分

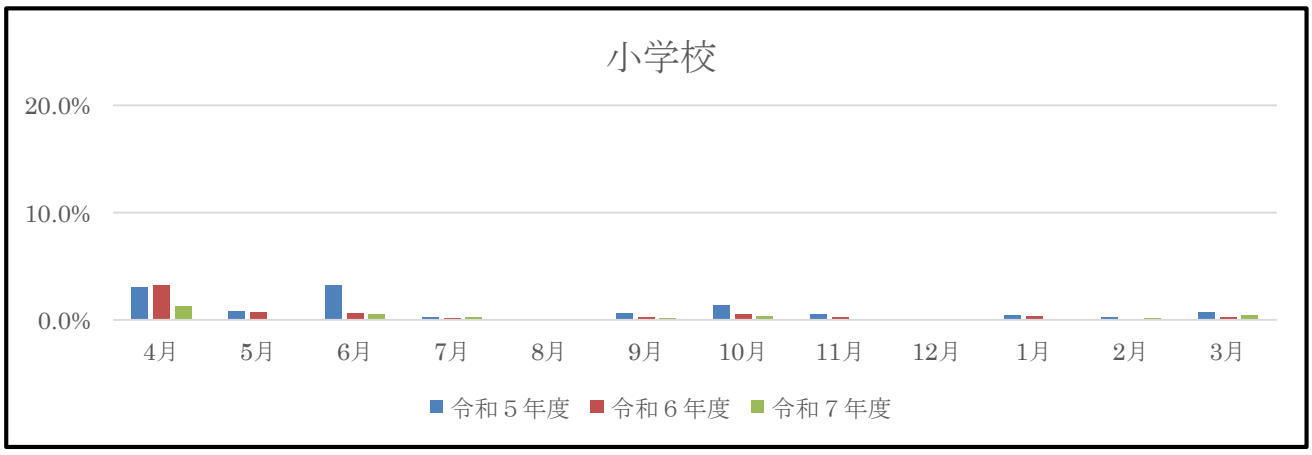
小・中学校ともに、昨年、一昨年と比べて、教職員一人あたりの１か月の時間外在校等時間の平均値が減少している。

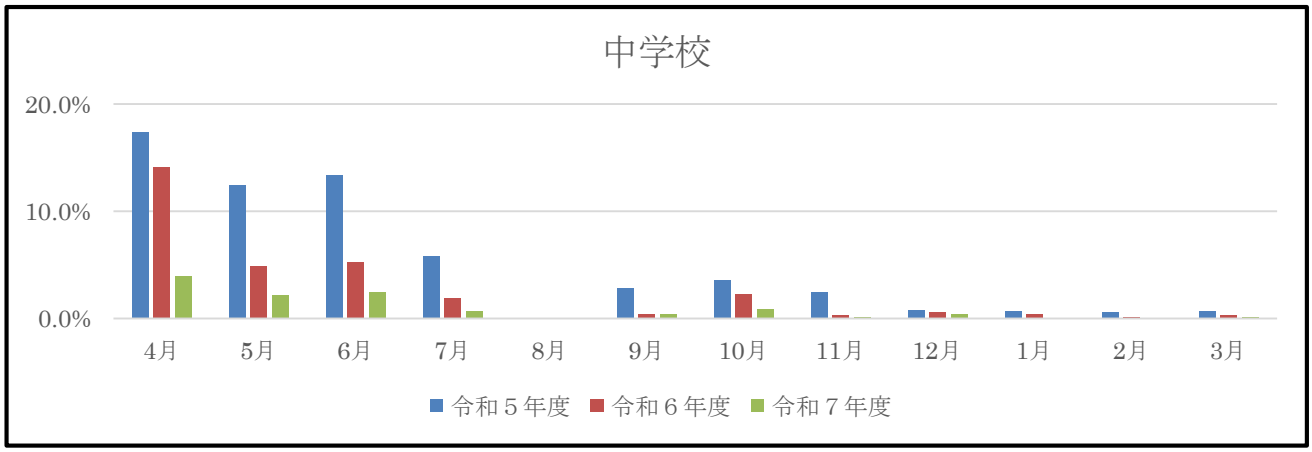
４　時間外在校等時間が４５時間以上の者の割合





５　時間外在校等時間が８０時間以上の者の割合





６　現状と課題

○　各学校における取組が着実な改善につながっている。

・定時退勤を促すためのリフレッシュデーの設定と定着
・校内多忙化解消委員会による教職員のアイディアを生かした業務の効率化
・学校行事や校時表の見直し
・ペーパーレス会議やフォームによるアンケート集計等、ICT を用いた業務の効率化
・研修や会議の精選
・教職員のタイムマネジメント意識の向上
・学校運営協議会の全校設置
・保護者連絡ツール（tetoru）の導入
・１学期始業式の繰り下げによる年度初めの準備期間の確保

▲　平均値としては１か月の時間外在校等時間が減少している一方で、小学校に比べて中学校の方が長時間勤務の教員が多い。

・１か月の時間外在校等時間が８０時間を超える教員は、３年間で大幅に減少しているが、４５時間を超える教員は、小、中学校ともに 30%を超える月が年に半数以上ある。引き続き、改善に向けた個別の対応を重点として取り組んでいきたい。